

男子戦評

大会名 第72回全日本バレーボール高等学校選手権大会青森県代表決定戦

日 時 令和元年11月9日～10日

会 場 カクヒログループスタジアム

男子決勝（11月10日）

五所川原工業高等学校 3 $\left\{ \begin{array}{l} 25-18 \\ 25-20 \\ 25-20 \end{array} \right\}$ 0 弘前工業高等学校

ファーストレフリー 新岡 勇士

セカンドレフリー 津嶋 由香

2年連続8回目の出場を目指す五所川原工業高校（以下五工）と2年ぶり41回目の選手権大会出場を目指す弘前工業高等学校（以下弘工）の対戦である。

第1セット、五工は中山のダイレクトスパイクで先制に成功。続いて岡本知のブロック、中山のサービスエースで加点する。対する弘工は粘り強い守備と多彩な攻撃で応戦し、中盤まで大きく差がつかない。五工はその後、途中出場の岡本佳のクイックやブロックで加点し、主導権を握った五工が25-18で勝利した。

第2セット序盤、五工は岡本知・倉光のサイド攻撃や、三上の速攻で得点。対する弘工はブロックが機能し、時間差攻撃を中心とした的を絞らせない攻撃で応戦する。五工のミスもあり、リズムを掴む。五工は10-13とされ、タイムアウト。タイム明けすぐに、五工は山谷の速攻などで4連続得点、逆転に成功する。その後は倉光、岡本知、山谷らの攻撃で加点。中盤からペースを握った五工が25-20で連取した。

第3セット序盤、五工は山谷のブロック、岡本知、倉光のスパイクで得点。対する弘工は佐藤のブロック、奥崎のスパイクで応戦。中盤、五工は攻守が噛み合い、要所で連続得点をあげ、17-14としたところで弘工はタイムアウト。その後、岡本知、中山らの攻撃で一気に波に乗る。最後は倉光のスパイクが決まり、第3セットも五工が25-20で勝利した。セットカウント3-0で五工が2年連続8回目の選手権大会出場を決めた。

戦評者 本間 貴士